

# 市政専門図書館ニュースレター No.5

## 市政専門図書館と私

### ジェラルド・モレ（フランス大都市市長会日本駐在員）

私は市政専門図書館を 10 数年に渡って何かにつけ利用してきましたが、この度改修工事が終わり再開となるこの時期に、市政専門図書館に対する私の“擁護と顕揚”を申し上げることを晴れがましく光栄に存じます。

私はフランス大蔵省の国家公務員として、1976 年、Caisse des Dépôts(フランス預金供託公庫)に配属されました。外国には金融界以外あまり知られていませんが、1816 年設立され、日本の旧大蔵省理財局、公的開発金融機関(旧、日本開発銀行、公営企業金融公庫、住宅金融公庫、中小企業金融公庫・・・)のすべてに相当する機関です。



日本の株式を担当後、1980 年フランス大使館員として経済金融財政部に出向しました。そこで地方自治体の一部を担当し、その後 Caisse des Dépôts 駐在事務所を経て再び大使館に戻り日本の地方財政・地域開発を担当しました。この時期、日本とフランスにおける自治体の PPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ)に関するセミナーを三年間に渡り催しました。

そのような訳で私には地方の財政状況は大変興味深く、フランスと日本の比較分析は熱がこもります。ですからこの市政専門図書館は、私にとって必要不可欠で、通い始めてからすぐ私は以下の三つの理由でとても嬉しく幸せな気持ちになりました。

- 1) 地理的には、大変素晴らしい場所に恵まれていることです。帝国ホテル、各省庁の近くで便利。美しい公園の中にあります。
- 2) 市政専門図書館は真の宝庫。その中には恐らく数万、数十万と思える程の新旧の資料が収集されており、それらは地方自治体に関するすべてのことで総合的な資料、特定研究論文など豊富な分野にわたっており、外国語の文献なども見受けられます。さらに有難いことは、資料を借りることが出来るということで( )、これは大変便利で貴重です。大学の図書館はすべてがそういう訳ではありません。
- 3) 市政専門図書館の職員の方々は、私たち外国人に対してもほんとうに心をこめて親切に対応してくれます。莫大なデータ、索引の中から自分が必要とするものを探し出すのは至難の業です。皆さんどなたも、こちらのお話をよく理解して適切な資料、本を選び探すのを助けて下さいませ。

最後に、お忙しい中で時間を割き助言を頂きお世話になりましたこと、この場を借りて皆様に厚くお礼を申し上げます。

## 【図書館の改装のお知らせ】



市政専門図書館をもっと快適に利用していただくために、改装工事を行いました。

### 改装となったところ

#### 1. 開架書架を設置しました

新着図書や新着雑誌などを手に取って閲覧することができます。

#### 2. 閲覧室を広くしました

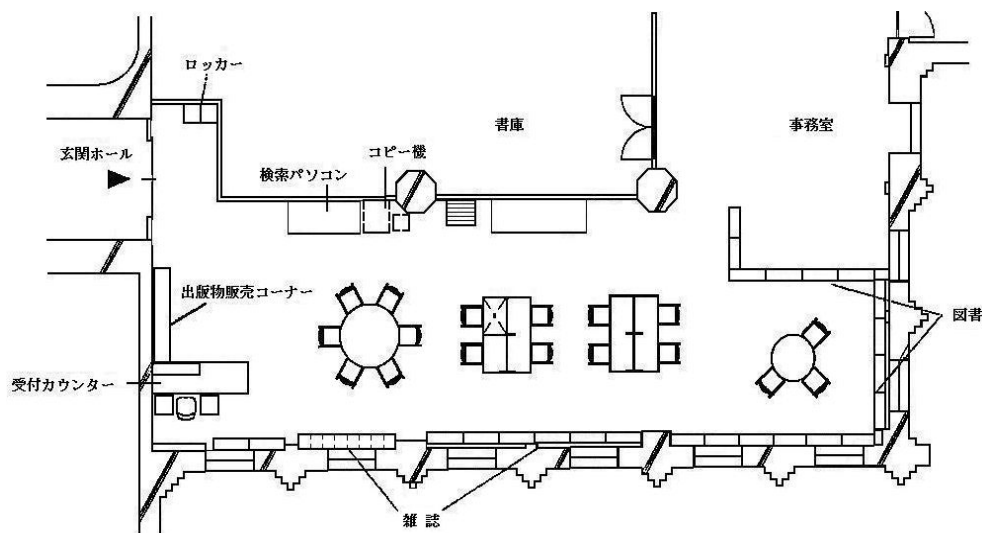
閲覧室をこれまでよりも広くし、キャレルや丸テーブルを設置しました。また、窓を二重にし、カーテンを付け、背の低い木製家具を設置しましたので、静かで落ち着いた雰囲気になりました。

#### 3. 車椅子の方の利用がしやすくなりました

市政会館横（日比谷図書館側）の駐車場のスロープから会館に入ることができます。図書館の入口を車椅子が通れるように広げました。車椅子用の席を設けました。

#### 4. 図書館の入口の位置を替えました

市政会館の正面玄関に入り、エレベーターホールの右手奥が図書館入口（タッチ式自動ドア）になりました。



市政専門図書館レイアウト図

## 改装によって利用方法も一部変わります

- ・入口にコイン式のロッカーを設置しました。筆記用具、ノート類、パソコン以外はロッカーに入れてください。
- ・受付カウンターと検索パソコン横に「市政専門図書館入館・資料請求票」が置いてありますので、お名前を記入してください。
- ・開架書架の資料はご自由にご覧ください。書庫の資料は資料請求票に記入して受付にお持ちください。職員が出庫し、資料をお渡します。

## 【「東京資料サーチ」について】

「東京資料サーチ」は、複数の機関の東京に関する資料を一括して検索できるシステムとして、2007年3月に開設されました。

この「東京資料サーチ」は、「東京都図書館等連絡会」（東京都が設置する図書館や資料室及びそれに準ずる機関による相互協力を目的とした組織）に加盟する9機関のうち、東京関係資料を多く所蔵している機関が検索対象となっています。これまでの対象機関は、都立中央図書館、東京都議会図書館、江戸東京博物館図書室、特別区自治情報・交流センター、首都大学東京図書館情報センターの5機関でしたが、2009年2月より市政専門図書館が加わり6機関になりました。

下の図は、「東京資料サーチ」の検索画面です。検索する場合は、この「書名/タイトル」欄や「著編者名」欄などに検索したい語を入れて、「検索開始」ボタンを押します。検索結果は、各機関ごとに所蔵状況が表示されます。検索でヒットした他機関の蔵書を、本館に取り寄せることも可能です。取り寄せを希望される場合は、ご相談ください。

東京資料サーチ  
東京関係資料の横断検索

【お知らせ】  
東京市政調査会市政専門図書館は、改装工事のため1月31日から5月1日まで、臨時休館となります。

▼検索したい図書館をチェックしてください

<input type="checkbox"/> 東京都立図書館	利用案内
<input type="checkbox"/> 東京都議会図書館	利用案内
<input type="checkbox"/> 首都大学東京図書館情報センター	利用案内
<input type="checkbox"/> 東京都江戸東京博物館図書室	利用案内
<input type="checkbox"/> 特別区自治情報・交流センター	利用案内
<input type="checkbox"/> 東京市政調査会市政専門図書館	利用案内

▼項目をクリックすると簡単な説明を表示します【ヘルプメニュー】

書名/タイトル  
著者名  
出版者名 ※  
出版年(西暦) ※  
ISBN ※

※ 半角のみ項目、半角使用は不可  
※ ISBN検索ではISBN以外の入力条件は除外されます  
(例) 4-7938-0170-6  
(例) 978-4-7938-0170-9

館ごと表示数・タイムアウト 10 件 60 秒 検索開始 クリア

条件項目は館により無効の場合があります 詳細

検索結果は別画面に表示されます。

▼検索した資料のご利用については、各館の利用案内をご確認ください。

▼このシステムに関するお問い合わせは下記までお願いいたします。  
東京都立中央図書館 ホームページ管理担当  
website.master@library.metro.tokyo.jp

▼東京資料サーチのパンフレットはこちらをクリックしてください。(PDF形式ファイル1,427KB)

▼東京資料サーチとは  
東京都や都内の区市町村の行政資料をはじめ、東京の地域に関する資料・情報を収集・提供している図書館・資料室の蔵書約75万冊を、一括して検索できるシステムです。

▼検索できる図書館・資料室は  
東京都図書館等連絡会に加盟する  
・東京都立図書館  
・東京都議会図書館  
・首都大学東京図書館情報センター  
・東京都江戸東京博物館図書室  
・特別区自治情報・交流センター  
・東京市政調査会市政専門図書館の6機関です。  
(東京都図書館等連絡会についてはこちらをご覧ください)

▼検索した資料は  
検索した資料のご利用については、各機関の利用案内をご確認ください。  
また、東京都図書館等連絡会加盟機関へ取り寄せ等ができます。取り寄せ等については、各機関へお問い合わせください。

「東京資料サーチ」検索画面  
( <http://metro.tokyo.opac.jp/tms/> )



## 【灰色文献紹介】(蔵書中から書店にない本や入手困難な本を紹介します)

神岡 浪子 著「生かされて、学んで九十年」

(2007年12月 127p 20cm 非売品 図書番号:OJ-2463)



本書は、著者の主に幼少期から教員時代までの随想である。研究員・教員時代に執筆した論文の一部や大学を定年退職後、故郷に戻り地元誌に投稿した随筆も掲載されている。

著者は、1914(大正3)年、埼玉県大沢村(現在、美里町)に生まれた。1934(昭和9)年、東京市政調査会(以下、本会)にタイピストとして就職した。6年目が過ぎようとしたところに肺結核を患い、医師から余命を宣告された。しかし、一冊の本との出会いが健康な体を取り戻すきっかけとなり、もともと勉学の志があったので本会を退職後、明治大学女子部法科に入学した。大学生活の中でもっとも脳裡に焼きついている講義は、我妻栄東大教授の公害に関する話で、のちの研究生活を支える大きな力となったと述べている。

1947(昭和22)年、本会研究室で研究の仕事をしてはどうかという話をもらった。まえがきに、「まさに拾われたような就職の機会が与えられなかったら、おそらくこんにちの私はなかった」とあるように、戦後の混乱のなか、本会への再就職が著者自身のさらなる生きる力となり、この上もない喜びであったと述べている。

著者は、「実は、都市問題とは何か、という勉強もしないで、いきなり…東京のなかを歩きまわったのが都市調査のはじまり」と述べているように、研究職としての出発点は、まさに手さぐり状態のなかで都市問題を歩いて調べることであった。本会での21年余の在職期間の中で、もっともつよく印象に残っている仕事は、就職後すぐに担当することとなった東京都の社会救済に関する調査であった。この調査は、戦後における東京都の社会救済事業を都政全体の面から再検討し、都の社会救済事業行政のあり方を定めるものであり、そのためには東京都が直面する種々の社会問題を分析し、国家の責任で社会政策として処理すべき事業と東京都が独自に処理すべき事業に分ける必要があった。

調査研究に没頭する日々であったが、折にふれて都市問題に関する古典にも接している。特に、片山潜や安部磯雄など労働運動、社会主義運動の先覚者から都市問題を労働者の問題として扱っていることを学び、そのことが「都市問題を労働者階級の立場から考える基本的方向に大きな示唆をあたえた」と述べている。1960年代までに発表した論文の多くは、都市下層社会や社会福祉に関するものであり、そのなかの一つ、「被保護階層の転落過程における諸問題(上・下)」（『都市問題』第48巻第2号、第4号）は、戦後各地でおこなわれた住民実態調査報告書にもとづいて貧困化をもたらす要因を類型化し、被保護階層への転落過程を理論的に実証したものである。著者は、貧困化の要因は、単に地域的な要因だけでなく、職業的要因が密接に結びついていると指摘している。

本会での最後となる調査研究は、公害問題であった。'60年代は鉱工業の発展にともなって、各地で公害が発生した。公害の発生源をかかえる自治体職員からその実状を聞きだすのはひじょうに根気を要したが、この問題と取り組んでいるなかで、公害対策の根幹は、公害発生源対策であることに考えが至った。公害発生源が日本経済の基盤である鉱工業が中心であることを確認するために、日本で最初の公害事件である足尾銅山の鉱毒事件の研究に取り組んだ。これが、1987(昭和62)年に刊行した『日本の公害史』研究のはじまりであった。

1968(昭和43)年、日本福祉大学に教授として就任した。当時は公害問題のまっただ中であり、この問題に真正面から取り組み、執筆や講演に奔走する日々であった。当時、自宅の書棚に張られたポスター“断じて行なえば、鬼神も避く”を想い出し、「断じて行なわなかったら、いま、何の業績も残っていなかった」と述べているように、公害問題に躊躇することなく取り組んでいったことに自信と誇りをもっている。

発行:(財)東京市政調査会 市政専門図書館

100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-3 市政会館1F Tel:03-3591-1264 Fax:03-3591-1278 <http://www.timr.or.jp/>